北陸中日新聞　2012年（平成24年）11月6日（火）

富山市中央通りポスター

主役は商店主

慶大生らが作製へ

地域社会を研究する慶応大生が十、十一の両日、富山市を訪れ、市中心部の中央通りのポスターを作製する。ポスターは今月下旬まで市街地や路面電車内に展示される予定。商品ではなく、店主や職人の写真と独白がメーンの斬新なデザインで、商店街のPRに一役買いそうだ。

慶応大生らが試作した呉服店「牛島屋」（富山市中央通り）のポスター

参加するのは同大環境情報学部の加藤文俊教授（社会学）のゼミ生約二十人。同ゼミは八月、和歌山県田辺市でも同様の試みで好評を得ており、富山市では商店主や路面電車運転士の十六枚を作る。加藤教授は「働き方や地域への思いを丹念に取材し、『よそ者』の視点で魅力を発掘したい」と話した。

企画の発端は、八月、学生がまちづくり案を出し合う「学生まちづくりコンペティション」（富山市主催）にゼミ生二人が参加したこと。ポスターの企画案で特別賞に選ばれ、補助金を得た。

共催する第三セクター「まちづくりとやま」の担当者は「地元の私たちとは違う視点があるはず。街づくりに取り組む地元学生の刺激にもなる」と期待を寄せた。

（大野暢子）